

末森城(末盛城)(名古屋市千種区城山2丁目)(城山八幡宮)

末森城(すえもりじょう)は、室町時代末期、尾張国愛知郡鳴海荘末森村(現・愛知県名古屋市千種区城山町)にあった城郭である。縁起の良い名ということで末盛城とも書かれた。

概要

天文17年(1548年)、織田信秀が築城した。三河国松平氏や駿河国今川氏などの侵攻に備えてのもので、実弟織田信光が守る守山城と合わせて東方防御線を構成したものである。信秀は、城主に織田信行(信勝、織田信長の実弟)をあてていたが、自らが古渡城から移り、天文20年(1551年)にこの末森城で死去したとも伝わる。

弘治2年(1556年)、織田信勝は林秀貞、柴田勝家などとともに信長に叛旗を翻すが、稲生の戦いで敗れて和睦した。しかし翌弘治3年(1557年)、再び謀反を企てたのを柴田勝家が信長に内報し、信勝は清須城で謀殺された。

末森城は城主不在のまま放置され、いつしか廃城になった。城の西北山麓に信秀の霊廟があったが、現在は名古屋市千種区四谷通にある桃巖寺内で信勝とともに供養されている。

構造

末森城は、東山丘陵地の末端に位置する標高43mの丘に、東西約200m、南北約160mの規模で築城された平山城である。末森村古城図によれば、東西45m、南北約50mを本丸の縄張とし、周囲は二重堀で囲んでいた^[1]。そのうちの内堀北の虎口には、構造的に非常に珍しい「三日月堀」と称される半月形の丸馬出があったらしいが、現在は残っていない。

現在でも深さ7mほどの空堀跡など、遺構がよく残っている。

現状

本丸跡地は城山八幡宮の神域、二の丸跡地には愛知県が建設した旧・昭和塾堂が建っているが、後に城山八幡宮に払い下げられ、建物は現在愛知学院大学に貸与されている。また城山八幡宮内に末森城址の石碑が建っており、城の名は末盛通として残った。

Wikipediaによる

